

主題	異食原因の探求からの環境整備
副題	寂しがり屋のころを埋める「するめいか」
認知症ケア	

研究期間	8ヶ月	事業所	中野区かみさぎ特別養護老人ホーム
発表者：河合健二、渡邊朋子		アドバイザー：	
共同研究者：事故拘束検討委員会			

電話	03-3926-8443	メール	info@m-kamisagi.jp
FAX	03-3970-9620	URL	http://www.m-kamisagi.jp

今回発表の事業所やサービスの紹介	社会福祉法人武蔵野療園が運営するかみさぎホームは、昭和63年に開設し、中野区の北の端に位置している。従来型の特養で、定員は100名。ショートステイ16名のほか、通所介護（一般型、地域密着型認知症対応型）、居宅介護支援、訪問介護、地域包括支援センター（受託運営）を併設している。社会福祉法人武蔵野療園は、社会福祉法人としては東京都で1番最初に認可された。
------------------	--

《1. 研究前の状況と課題》

K様は平成24年10月に、医療機関より当施設に入居されました。入居前の医療機関においても紙類の異食があるという情報があり、入居当初から環境整備を行っていました。入居後2週間ほど経過した頃から紙類の異食が始まるようになりました。ご本人の周囲の環境整備は継続しておりましたが、車椅子の自操が可能なこともあり、ダイルームの他のテーブルに行くことや、各居室のトイレや他の方の床頭台等に行くなど、何処からともなく紙類を収集し、口に入れていることが続きました。口に含んでいるだけで飲み込んではいない様子でしたが、24年10月入居後、25年4月までの間に60件の事故報告が上がりました。ブリザードフラワーや石鹸を異食していることも1度ずつあり、重大な事故につながる可能性を危惧していましたが、有効な対策を見い出せずにいました。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

ここまでのところ、ティッシュやペーパータオル等の紙類の異食が多く、飲み込んではいない様子ではありましたが、ブリザードフラワーや石鹸などの異食もあったことから、重大な事故に繋がる前に、異食を回避していきたいと考えていました。

また、異食の原因を探求することで、よりK様が暮らしやすい環境を整備していくことにつながると考えました。

《3. 具体的な取り組みの内容》

対象者

K様 女性 75歳（入居当時） 要介護4
病名、既往等：アルツハイマー型認知症、アルコール依存症、直腸脱手術後、左大腿骨転子部骨折手術後

入居時のADL等：粥キザミ（主食大盛り）自己摂取可能。車椅子自操可能。食事の摂取スピードは速く、空腹感を訴えることが多い。他居室に入り収集癖や紙類の異食あり。理解力の低下はあり。お話し好きで意思疎通可能。寂しがり屋で、動物や子どもが好き。
入居後の経過：入居後2週間程経過し、初めての異食が発生。その後半年で60件（月平均10件）異食が続きました。その間食事量や形態及び提供方法の見直し、所在確認や環境整備、補食の提供、各活動や交流事業への参加など、様々な対策を立案、実施してきましたが、異食を防止することは出来ませんでした。

平成25年5月より、嚥下能力と咀嚼能力のアセスメントを経て、炙ったするめいかを小さく切って提供してみることにし、合わせて食事提供環境の再検討を行うこととしました。

《4. 取り組みの結果と考察》

半年で60件発生していたことが、5月は0件、6月は2件となりました。

飲み込んでしまうことによる誤嚥事故の発生や、どの程度の効果が期待できるか疑問に思うことにより、なかなか踏み出すことが出来ませんでした。これまでの実施していた対策では解決していなかったため、実施してみることにしました。

また、するめいかの提供と前後して、食事の提供環境を再考することにより、ご本人とゆっくり関わりながら提供できる環境となったことで、精神的に安定したことにより今回の結果につながったのではないかと考えます。

《5. まとめ、結論》

異食対策でするめいかを使用することについては、過去に何度か案として持ち上がったことがありましたが、実施には至りませんでした。今回は、当施設以外での過去の成功事例を参考にしましたが、事例を参考にする有効性を再確認できました。

また、食事スピードや空腹感の訴えの多さなどから食事提供の方法や、紙類を手の届かないところに置く、余暇時間に使い方などに対策を講じてきましたが、最終的にはK様とゆっくりとコミュニケーションを取れるような環境を整えたことが、大きな要因となったように思います。K様の「寂しがり屋」へのアプローチが有効な手段の一つでした。

日々多忙な仕事ではありますが、利用者様との向き合い方には常に気を配る必要があることを実感しました。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととしました。

【メモ欄】